



- 1～2 東大和フェスタ
- 3 表彰されました
- 4 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会
重症心身障害児(者)を守る全国大会
- 5 福祉サービス第三者評価結果
- 6 看護部院内研修計画
- 7 マイ・ワールド
- 8 人事異動・看護の日イベント

曇りのち雨…東大和フェスタ

東大和フェスタ実行委員会 生活支援科主査 高田貴二

今年の大行事のメインとっていい東大和フェスタは、例年の10月に大規模改修工事に伴う仮設棟への移転が予定されている関係で、6月に設定されました。今になって振り返ると、過去に私がこんなにも天気予報をまめにチェックし、梅雨前線とにらめっこをしたことがあったらどうか…と後悔してしまいます。いくら願っても願いは届かず6月23日の予報は雨マーク……。予報を見るたびに变化するのは、フェスタ前日と翌日の予報ばかりで、しかも晴れ……。益々不安が募る一方で、フェスタの準備は待つてはくれず、着々と内容が決まり始めました。

今年開設26年目を迎え、慣れ親しんだ建物ともお別れをして、仮設棟へ移転します。感謝の気持ち忘れないという意味合いから『昔を振り返ってみよう!!』という思い出展示も企画しました。では、これより東大和フェスタの様子をご案内いたします。

最初に皆さんを迎えるのは『ふれあい動物園』の動物達です。今回の人気者は柴犬、ミニブタ、ポニー、フクロウ、ひよこ、ん？ 全部でしたね。動物好きの私としては「愛おし〜い」の一言でした。それでは、動物達にお別れをして進みましょう。



みなさん!! あちらに見えますのが、黄色い『はとバス』 あっ! 間違えました。黄色い『はとバシャ』です。皆さんを乗せて、パカパカと心地よいリズムに合わせて観光中です。大人気で行列ができています。気をつけていってらっしゃい。

その隣では、良い匂いがしてきましたね。たこ焼きです。なんと「たこ」が入っていないたこ焼きなんです??詳しく説明しますと、誰でも食べられるように粉末のたこが入っているんです。

その隣には5種類のアイスクリーム、数えきれないくらい種類のある飲み物、それから綿菓子ですね。ボランティアの皆さんに協力していただき、とても賑わっています。いつもありがとうございます。

では、建物の中に入ってみましょう! 淡いブルーの風船で水をイメージしたゲートをくぐり、エントランスホールにやって来ました。大勢の利用者さんご家族、お客さん達で盛り上がっています。正面には、BODY SHOPの方による『マッサージ』があり利用者さんもリラックスしています。

左側には重症心身障害看護師についての展示と車椅子体験コーナー、右側にはあの有名テーマパークのような『写真館』があり、行列ができています。

エントランスホールの奥では、『ROLLING YAMATO』によるボーリングとゲームコーナーです。子ども達で賑わっていますね。ストライク!!

さらに進んでみましょう。ここから、『昔なつかし物語』の始まりです。廊下に飾られた写真、上映した映像は開設当初から約20年前までのものです。ご家族や職員の足を止め、昔話に花が咲いていました。ご家族からは「みんな若かったわねー」「懐かしいわねー」と笑顔が溢れていました。タイムスリップした感じですね。

さらに進んでいくと、プレイルームから美しい歌声や、楽器の音が聞こえてきます。今回の『ステージ』を飾ってくれた皆さんを紹介します。ゴスペル、和太鼓、エイサー、そしてセンター合唱部、職員バンドカスタネットと5つの団体がパフォーマンスを繰り広げてくれました。プレイルームは、コンサート会場を彷彿とさせるかのような熱気でした。今年も本当にありがとうございました。

プレイルームから一歩足を踏み出すと、そこは昔みんながグラウンドで一生懸命体を動かした、『運動会』会場です。会場を覗くと、大きい声を出して楽しそうな雰囲気がいっぱいでした。金メダルを獲得して笑顔を見せている様子は、とても楽しそうでした。また1年後、どんな楽しいことが待っているのか、今から楽しみにしていて下さい。今年もたくさん



マッサージ



写真館



ROLLING YAMATO



昔なつかし物語

んのボランティアの皆さんにご協力いただきました。ジョيوفェローズゴスペルクワイアさん、狭山グリーン太鼓さん、小平ゆいまーるエイサーさん、BODY SHOPさん、合唱部さん、カツタネッツさん、おもちゃ図書館さん、京王バスの運転士さん、関係各部署の皆さん、そして実行委員の皆さん、ありがとうございました。



ステージ



運動会

表彰されました

指導員 杉本裕樹

12年間に渡り東大和市で若者を中心に、地域に対し「STOP the DRUG Campaign -Street Dancing- in東大和」というイベントを企画、運営してきました。この度、薬物乱用防止啓発活動に取り組んだ功績が認められ、東京都庁にて東京都薬物乱用防止推進協議会会長より感謝状をいただきました。

イベントは「ダンス」「音楽」「DJタイム」「講演」「エンターテイナーによるショー」等により構成され、若者により伝わりやすい演出で薬物乱用防止の啓発を行っています。

地域の高校や大学、ダンスサークルさらに芸能界からはよしもとクリエイティブ・エージェンシー所属の芸人やダンサーEGU-SPLOSION等が参加しています。年々協力者や参加者も増えていき、去年は田代まさし氏を招き、薬物や薬物依存について体験談を講演していただきました。

「薬物」とは無縁と思っている方も多いと思いますが、年々若年化してきていて平成29年には中学生も検挙されています。お子さんをお持ちの方も注意が必要です。何をきっかけに薬物に手を出してしまうかは人それぞれですが、ストレスの多い社会では手を出してしまうきっかけは少ないと思います。はじめはその場限りや興味本位で一歩足を踏み入れたつもりが、抜け出せない。田代氏も「こんなに止められないものだとは思っていませんでした」と言っていました。まずは絶対に手を出さないことが大事です。



ところで、覚醒剤で使用されている注射器を知っていますか？ 多くが「TERUMO」の注射器です。一般的には購入できない医療用の物ですから、医療現場で働く者が横流ししている可能性も示唆されています。しかも、薬物常習者は注射器の目盛が擦れて消えるほど繰り返し使用します。勿論、針も使い回しです。恐ろしいですね。私たち医療現場で働く者は、絶対に薬物乱用に加担してしまうことのないよう、気を付けていただきたいと思います。

平成30年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会に参加して

看護部長 桑原光代

平成30年5月22日・23日の2日間、新神戸駅に近い神戸市芸術劇場にて開催され、全国132施設から約400人の参加がありました。当センターからの参加は、柳瀬院長、片岡事務次長と私の3人でした。

開催初日は、総会にて永年勤続賞と福祉協会認定重症心身障害看護師の表彰式が行われ、当センターからは長谷川看護主任が代表して永年勤続賞を受けました。その後、厚労省の説明や特別講演がありました。特別講演では「療養介護と重症心身障害施設のこれからを考える」をテーマに、児玉医師が療養介護の重要性を話されました。2日目は、シンポジウムとして「重症心身障害児者が豊かに暮らすための支援の進化」をテーマに5人のシンポジストの講演でした。当センター小児科医・リハビリテーション科長曾根医長が「重症心身障害児(者)の医療・療育の国際化」について講演されました。

専門看護師部会からの報告として、福祉協会認定重症心身障害看護師は全国で455名が認定され、今後はシラバスの統一や認定者の積極的な活動などが課題として出されました。全体を通して、施設に課せられた課題について考える有意義な2日間でした。



平成30年度 第55回重症心身障害児(者)を守る全国大会

在宅支援室 医療ソーシャルワーカー 三村さやか

6月31日～7月1日の2日間、大阪市にあるシェラトン都ホテルで全国大会が行われました。約1000人のご家族や関係者が参加され、当センターからは柳瀬院長、獅子野事務長、桑原看護部長、私の4人で参加いたしました。

1日目の行政説明では、改正障害者総合支援法と報酬改定、サービス提供者の質の向上、障害児者の生活の充実、医療的ケア児などについて話されました。分科会は重症児施設部会に参加し、年齢や状態に応じた適切な日中活動の提供、多職種協働による支援、終末期の支援について学びました。地域支援やボランティア活動についてのお話もありました。2日目はご家族の生の声を聞き、要望書も採択され、療育センターの職員として、ソーシャルワーカーとして、どのように支援ができるだろうかと改めて考えさせられました。

在宅、入所の重症児者を取り巻く最新の情報と現状を把握、共有することができ、ご家族や関係者と交流することもできました。今回の貴重な経験を、日々の業務に役立てたいと思います。



平成29年度 福祉サービス第三者評価結果

1 評価機関名 特定非営利活動法人NPOサービス評価機構

2 評価結果の概要

(1)医療型障害児入所施設(旧重症心身障害児施設) **長期入所**

①特に良いと思う点

- ・QOL向上委員会を中心に、ハード及びソフトの両面から利用者の生活を豊かに広げている。
- ・センター全体で安全対策に積極的に取り組んでおり、職員の発意による具体的な取り組みがみられている。
- ・病棟ごとに倫理に関する学習会を実施し、職員の倫理観の向上を図っている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・急変時の対応や看取りケアに関する同意書を作成し、家族の意向確認を行っておくことも検討されることを期待する。
- ・利用者・家族の要望・意見に対して、家族の理解を深めるようなさらなる工夫や取り組みに期待したい。
- ・生活支援科職員のキャリアアップの仕組みの周知が望まれる。

③センターが特に力を入れている取り組み。

- ・利用者のQOL向上に向け、日中活動の見直しに取り組んでいる。
- ・利用者の安全・快適な生活に向け、改善に向けた取り組みを積極的に行っている。
- ・目標管理にバランス・スコアカードを活用し、ビジョン達成に向け数値管理を行っている。

(2)生活介護(主たる利用者が重症心身障害者) **通所**

①特に良いと思う点

- ・医師、看護師、指導員・保育士等が連携して医療管理と療育活動を実施し、QOLの維持向上に努めている。
- ・センター全体で安全対策に積極的に取り組んでおり、職員の発意による具体的な取り組みがみられている。
- ・病棟ごとに倫理に関する学習会を実施し、職員の倫理観の向上を図っている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・利用者の重症度も進んでいるため、療育活動のさらなる充実が望まれる。
- ・快適性に向けたハード面での工夫が望まれる。
- ・利用者・家族の要望・意見に対して、家族の理解を深めるようなさらなる工夫や取り組みに期待したい。

③センターが特に力を入れている取り組み。

- ・利用者のQOL向上を目標に掲げ、その充実に向け取り組んでいる。
- ・日本看護協会認定の認定看護師などが中心となり、看護・療育のスキル向上を図っている。
- ・目標管理にバランス・スコアカードを活用し、ビジョン達成に向け数値管理を行っている。

平成30年度

看護部院内研修計画

センターに入所されている長期利用者の方は、毎年年齢を重ね、医療的ケアが少しずつ増えてきています。また、短期入所の方や医療入院の方の中には、低年齢の利用者もあり、高度の医療的ケアを必要とすることが多くなってきています。

このような状況の中で、安全で安心できる療育環境を整えながら、質の高い看護・療育の提供ができる職員の育成をめざし、院内教育を企画しています。看護師、保育士、指導員がそれぞれの専門性を活かし、実践を通して成長ができるような内容になっています。また、平成30年度は改修工事に伴う移転がありますので、専門コース、管理コースは休止にしました。

研 修 名		研 修 目 的	対 象	
基礎コース	新任オリエンテーション 基礎コースⅠ	①看護部職員として必要な知識・技術を学び、病棟での業務に活かす。 ②看護(療育)の基礎技術、知識、態度を習得するとともに、重症心身障害児者の特徴を理解し、安全な看護(療育)を提供する。 ③担当職員として助言を受けながら、看護(療育)計画に沿って実践する。 ④自己の看護(療育)観を明らかにする。	1年次悉皆	
	基礎コースⅡ	①担当職員として助言を受けながら、利用者の看護(療育)の展開に責任を持つ。 ②根拠に基づいた看護(療育)を実践する。 ③自己の看護(療育)観を深める。	2年次悉皆	
	基礎コースⅢ	①担当職員として自立し責任ある行動がとれる。 ②根拠に基づいた知識技術とともに、個別的看護(療育)の実践ができる。	3年次悉皆	
一般コース	プリセプター	専門的知識を学び業務に活かす。	職歴3年目以降	
	看護・療育記録			
	看護・療育記録			看護計画Ⅰ
	在宅支援			看護計画Ⅱ
	倫理			
	てんかんの基礎知識			
	看護・療育研究			
	フィジカルアセスメント			
看取りの看護				

朝5時15分、目覚まし時計のアラームで目が覚め、寝床で背伸びをする。うーん、さあ今日も戦いだ。立ち上がって水を飲みに行く。しばらくぼーっとできるが、5時45分に次のアラームが鳴ってしまうと、もう猶予はない。

「朝だよー。おーきーてー。」3D回転(宇宙遊泳か?)の果てに大変な格好で寝ている小3の娘と妻に叫びつつ、テレビをつけてお天気をチェックする。(うわー今日は雨降り?)

洗濯機を回してからお湯のスイッチを入れ、キッチンに行き、昨夜の残りの皿洗いを始める。「どうするのー? 7時まで寝てるつもり?」

6時15分。もう限界だ。私はぐたぐたの娘を抱えてトイレまで運ぶ。その後、動きだした妻が立ち上がり娘を追い出すが、生意気になってきた娘も口とバタ足で抵抗する。しばらく小競り合いが続くが、「いい加減にして!」とうとう妻が大噴火。娘をまくし立て、シャワーを浴びさせて身づくろいさせる。朝食はいつも超特急だ。

7時10分。今朝もやっと娘を送り出し、平和に出動できた。やれやれ。(片岡清之)



思うこと 感じること 伝えたいこと

My World

Vol.8

『風は生きよという』という映画には、東大和市在住の車いす、人工呼吸器のユーザーである海老原さんが出演されています。海老原さんは、だれもが住みやすいまちにするために、東大和市地域自立支援協議会の会長、障害当事者としてNPOの理事長、テレビに出演など日々大活躍されています。ちなみに昨年、当センターの利用者、ご家族、職員も自立支援協議会のアンケート調査に協力し、まちづくりに貢献しました。

私は彼女から「支援者は仕事の時だけかもしれないけど、障害当事者は毎日ずっと考えているわけだから・・・」と言われました。「Nothing About Us Without Us / 私たち抜きに私たちのことを決めないで」と国連での障害者権利条約の話し合いの時に、当事者が声を上げました。「よかれと思って」とか「こうあるべき」と支援者の価値観を押し付けていない? 障害者だって失敗



や遠回りする権利があるよ。海老原さんの言葉、生き方からいろんな問いかけを感じます。映画を観たい、海老原さんに会いたい、語り合いたいと思った方、ぜひソーシャルワーカーにお声掛けください。一緒に考えていけたら、嬉しいです。

(関田亜紀子)

看護の日イベント開催 伝えたい…看護の心

看護師長 濱野正幸

「看護の心」を伝え、センターをもっと身近に感じてもらえるようにと、今回3回目の看護の日イベントを5月11日(金)10:00~12:00に開催致しました。

看護科主任中心の12人で、より良いイベントになるようにとアイデアを出し合いました。当日は、朝から晴天に恵まれてイベント日和。1階エントランスホールで、測定コーナー、手洗い体験コーナー、お口と健康コーナーの3箇所に別れてスタンバイし、多くの方々にご参加頂きました。手洗いコーナーでは、昨年受けた指導を守っているという声を聞き、続けること



の成果を感じました。また参加者からは、多くの質問もありました。健康管理の大切さを考えるきっかけ作りになれば幸いです。参加された皆さんの笑顔と笑い声、私達の説明に熱心に耳を傾けてくださる姿に支えられ、利用者さんのご家族、外来患者さんのご家族、職員など参加者は、合計66人の大イベントになりました。多くの皆さんの御協力により、無事に



実施することができました。御協力頂き感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第93号

編集 院内報そよ風編集委員会
発行日 平成30年7月15日
発行 東京都立東大和療育センター
東京都東大和市桜が丘3-44-10
Tel 042-567-0222

フェスタの後、程なくしての梅雨明け…あ〜夏が来るんだと思ってい
たら、予想を超える大水害のニュースにいたたまれない思いだけ
編 集 後 記
が募ります。太古から自然にだけは太刀打ちできないことを知って
いたからこそ、先人は祈りを捧げてきたのだといいます。

一方で先人は、切り換えることの大切さも伝えていきます。朝という
文字をよ〜く眺めてみると、「十月十日」と書いてあります。毎朝、新
しい朝を迎えるたびに、私たちは生まれ変わっているということを伝
えてくれています。さあ、新しい一日の始まりです。(あっしー)